

## お詫びと訂正

本書『これからはじめる 口腔機能向上事業ガイドブック』におきまして、以下のような訂正がございました。深くお詫びいたしますとともに、以下のように訂正させていただきます。

### 訂正箇所

42 ページ 下表を下記のように訂正いたします。

<実施前>
QOL 評価で、口の乾き：2、表情の豊かさ：3、咀嚼機能評価で噛める食品レベル：7、嚥下機能評価で舌の挙上運動：1、頬の膨らまし：1、食事中的むせ：1
<実施後>
口の乾き感および表情の豊かさが改善し、咀嚼機能も 7 から 13 に大幅にアップしました。
(考察)
咀嚼機能が改善したことで、食べる楽しみが倍増し、その結果として表情の豊かさもよくなったのではないかと考えられます。一方、舌運動機能も改善しました。舌挙上運動が 1 から 2 へ、頬の膨らましも 1 から 2 へと改善しました。このことは嚥下機能の改善にもつながり、食事中的むせの頻度が減ったと考えられます。咀嚼機能と舌運動機能の改善は唾液分泌量の増加、さらには口腔粘膜の保湿度の改善につながり、結果的に QOL 評価としての口の乾き感の改善につながったと思われます。